

分科会開催報告書

報告日	平成 27年 4月 2日	報告者	田中徳明																																			
分科会名	浮雲俳句会	開催テーマ	第88回浮雲俳句会例会																																			
開催日時	平成27年 3月 29日 午前 9:30~11:30	開催場所	金沢地区センター小会議室																																			
参加人数	“わ”の会会員 男 13名 女 4名 合計 17名 欠席者 0名																																					
<p>実施内容</p> <p>第88回例会の出句は兼題 ①信濃川 ②亀 と当季雑詠2句の計4句。 句会は、大川一馬会員による添削披露及び鈴木勇平会員による選句の披講の後、北野主宰から、天・地・人各賞及び特選8句並びに佳作6句の発表と、それぞれの句についての論評があった。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">天賞句</td> <td style="width: 60%;">筆先の釉に亀甲の春染めり</td> <td style="width: 25%;">和 女</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>亀鳴くや地球蠢く日はいつぞ</td> <td>勇 平</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>残雪の山河まばゆし信濃川</td> <td>とも女</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">特選句</td> <td>野に里に春風連れて信濃川</td> <td>一 柷</td> </tr> <tr> <td>雪代の幾川連ね信濃川</td> <td>二 祥</td> </tr> <tr> <td>春霞絹をまとひて信濃川</td> <td>祥 代</td> </tr> <tr> <td>春霞のたりのたりと信濃川</td> <td>岩 介</td> </tr> <tr> <td>一条の雪解肥りて信濃川</td> <td>一 紀</td> </tr> <tr> <td>当番の箒の先の余寒かな</td> <td>一 幸</td> </tr> <tr> <td>モノレール曲がれば富士の春深雪</td> <td>十 九</td> </tr> <tr> <td>ウクライナ亀鳴く日々の早かれと</td> <td>一 馬</td> </tr> </table> <p>主宰の指導：①今日の句会では、特に兼題①の信濃川の句に於いて、最適季語を使ったものが複数句で見られた。このような心構えで、今後も適切季語に留意されたい。 ②ご当地句についても、意識をもって取り組むことが望ましい。</p> <p>会員選高点句</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">8点句</td> <td style="width: 60%;">置き去りの遊び疲れし紙風船</td> <td style="width: 25%;">とも女</td> </tr> <tr> <td>7点句</td> <td>春陰のうす絹まとふ信濃川</td> <td>和 女</td> </tr> <tr> <td>7点句</td> <td>ゆらぎつつ春月のぼる湯屋の町</td> <td>とも女</td> </tr> </table> <p>次回の予定 平成27年4月26日(日)午前9時30分~12時 金沢地区センター 第89回例会 兼題 ①隅田川 ②桜 披講 十九</p> <p>その他 ○ 浮雲俳句会10周年記念の句集編纂について、自選40句を中心とする各会員の原稿を、6月末までに提出出来るように、各人準備を進めてもらいたいとの世話役の要請があり了承された。 ○ 「ご当地俳句」について6月“わ”の会総回で会員に説明したいとの主宰の意向が示された。</p>				天賞句	筆先の釉に亀甲の春染めり	和 女	地賞句	亀鳴くや地球蠢く日はいつぞ	勇 平	人賞句	残雪の山河まばゆし信濃川	とも女	特選句	野に里に春風連れて信濃川	一 柷	雪代の幾川連ね信濃川	二 祥	春霞絹をまとひて信濃川	祥 代	春霞のたりのたりと信濃川	岩 介	一条の雪解肥りて信濃川	一 紀	当番の箒の先の余寒かな	一 幸	モノレール曲がれば富士の春深雪	十 九	ウクライナ亀鳴く日々の早かれと	一 馬	8点句	置き去りの遊び疲れし紙風船	とも女	7点句	春陰のうす絹まとふ信濃川	和 女	7点句	ゆらぎつつ春月のぼる湯屋の町	とも女
天賞句	筆先の釉に亀甲の春染めり	和 女																																				
地賞句	亀鳴くや地球蠢く日はいつぞ	勇 平																																				
人賞句	残雪の山河まばゆし信濃川	とも女																																				
特選句	野に里に春風連れて信濃川	一 柷																																				
	雪代の幾川連ね信濃川	二 祥																																				
	春霞絹をまとひて信濃川	祥 代																																				
	春霞のたりのたりと信濃川	岩 介																																				
	一条の雪解肥りて信濃川	一 紀																																				
	当番の箒の先の余寒かな	一 幸																																				
	モノレール曲がれば富士の春深雪	十 九																																				
	ウクライナ亀鳴く日々の早かれと	一 馬																																				
8点句	置き去りの遊び疲れし紙風船	とも女																																				
7点句	春陰のうす絹まとふ信濃川	和 女																																				
7点句	ゆらぎつつ春月のぼる湯屋の町	とも女																																				